

令和3年度（2021年）度 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『伝統と革新の教育で、世界で活躍するグローバルリーダーを育成する』

『建学の礎として、人格形成を第一義としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校』

2 中期的目標

- (1) 「志の教育」の実践強化
- (2) ICT を活用した学びの実践
- (3) 児童カルテの構築に向けた基盤整備
- (4) 英語授業の進化
- (5) 教員の英語指導力向上

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

保護者アンケートの結果と分析（令和3年11月実施）	学校関係者評価委員会からの意見
<p>*そう思う：3、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-3、わからない：0の加重平均</p> <p>【良かった点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「成果」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度の指標となる「入学を勧めますか？」では、「はい」「どちらかといえばはい」の肯定派が88.8%から94.4%にアップ。「いいえ」は2.4%から1.2%に低下した。 ・本年度、調査項目（ポイント加重平均）の全体平均は、2.13（昨年度2.03）となり高評価となった。その中では施設設備の充実が2.73で最高ポイントとなった。メディアラボや電子黒板の導入など、ICT施設・機器の充実が高評価に繋がったと考えられる。同時に学校目標であるICT教育のポイントも高い。日常的に授業でICT機器を利用している成果が表れていると考えられる。「ICT教育を積極的に授業に取り入れ、効果的に利用している」…2.33 ・26の調査項目のうち20項目が2ポイントを超えている。 *2ポイントを超えとかなり高い。1ポイントで普通。 ・「事務室対応」…2.73、「家庭連絡」…2.39、「専科授業充実」…2.39、「コロナ感染対策」…2.37、「安全管理」…2.32、「友人関係」…2.29、「クラブ活動充実」…2.28、「学校給食」…2.23、「教育目標説明」…2.22、「愛校心指導」…2.22などが高い。 ・「中学校進学指導」は、昨年度から大幅に向上した。（1.61⇒2.13） <p>【改善点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「課題」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「志の教育」は、1.74ポイントから1.89ポイントに向上したが、更なる飛躍を目指す。 ・「学校は、子どもの英語力（聞く・読む・話す・書く）を伸ばす指導をしている」は、昨年度の1.77から1.81に向上したが、更なる飛躍を目指す。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的催しの中で、卒業生のミス日本（松井氏）や東京オリンピックパラリンピックアンバサダー（田口氏）を招聘し、講演会を実施した。今後も、活躍する卒業生が子どもたちに直接話しかける機会を増やし、キャリア教育を進めていきたい。 ・英語力向上に関しては、コロナ禍で滞っていたレベル別学習を来年度から本格的に実施する。3～6年生が実施しているTOEFL Primaryの結果でクラス分けを行い、レベルに応じたスピードで学習に取り組むことができるようになる。 	<p>学校関係者評価委員会からの意見</p> <p>【第1回委員会が出された意見と回答】 令和3年6月24日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追手門ブランドは確立しているが、伝統だけでなくプラスアルファが欲しい。どこよりも一番になって欲しい。 ⇒新しい生活様式とともに、アフターコロナでの追手門の教育を再構築していきたい。現在、検討の真っ最中です。 ・下校指導など、厳しくしてもらってありがたい。コロナでルールが変わっていく部分もあると思うが、厳しくしてほしい。 ⇒厳しさだけでなく、6年生の下校時の整列の様子を校内に掲示して、意識を高めている。よい手本になっています。 ・SNSの教育を行って欲しい。動画の利用もして欲しい。 ⇒先日、5・6年生を対象にSNS講演会を実施。放課後は教員も研修を受けた。事前アンケートも有効であった。4・5年生の保護者を対象に3学期にSNS講演会を実施したい。PTA活動としての実施を検討したい。 <p>【第2回委員会が出された意見と回答】 令和3年10月28日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性が今後ますます問われる。追手門における多様性教育とは？伝統と多様性の関係。革新と多様性ばかりになって欲しくない。多様性を言い過ぎると、学校崩壊につながるのではと危惧する。 ⇒伝統をないがしろにすることはしない。男女平等やジェンダーなどについては、知っておくべきこと。積極的に取り組みたい。追手門として、何を守っていくか、はっきりさせることは必要。 ・登下校の電車が心配。不審者がいるのではないか。そんな中で、先生方が毎日駅まで引率して下さることはとてもありがたい。目に見えないところで先生方が気を遣われていることを保護者がもっと評価してもよいと思う。 ⇒不安なお気持ちはとてもよくわかる。子どもや保護者の不安を取り除けるよう、下校指導に励みたい。 ・今後の取り組みについて聞かせて欲しい。 ⇒次のテーマは「宇宙」。国際教育センターを立ち上げて、SUNプロジェクト（シリコンバレー・国連・NASA見学）を推進していきたい。 <p>【第3回委員会が出された意見と回答】 令和4年2月24日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoomのライブ授業配信は行っていないようだが、なぜか？ ⇒小学生には不向きではないかと考えている。ベタ撮りの配信は不親切と考えている。必要なものを必要なときに送る。欠席者対象のZoomコミュニケーション&質問の時間を開設。個別に対応している。様々な形での学力保障を検討します。 ・ICTに専従の人がいるのではないか？ ⇒来年度より、ICT支援員を入れる予定。授業の相談にも乗ってくれるし、機器やID管理なども任せる。 ・宿泊の修学旅行はできなかったが、日帰り修学旅行やお別れ遠足、一日中大阪城での活動など企画していただいて、よい思い出となった。 ⇒6年生は、4年生の林間以来宿泊行事ができていない。少しでも思い出作りができたらと、企画した。喜んでいただけて何よりです

3 本校の取り組み内容および自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「志の教育」の実践強化	①キャリア教育の推進 ②人材の発掘 ③礼儀礼節 ④生活指導の見直し	①児童が特に強い憧れを抱くキャリアを有する人材の選定と来校の打診を行う。 ②大学 1,2 回生となる追小卒業生への進学先調査を実施する。 ③礼儀・礼節に関わる評価基準を設け、児童一人ひとりのレベル評価を実施する。 ④生活実態調査の実施準備を行う。	① 5 名以上リストアップのうえ打診 ②リストの作成 ③各クラスに一覧表を作成 ④アンケートの立案・検討	①文化的催しの中で、卒業生のミス日本（松井氏）や東京オリンピックパラリンピックアンバサダー（田口氏）を招聘し講演会を実施した。音楽鑑賞会や児童の憧れるけん玉やなわとびのプロによるワークショップも行った。 ②作成の途中である。早急に完成させたい。 ③「追手門児童の姿」の評価基準書を作成した。 ④生活実態調査を実施。SNS 実態調査も実施した。
2. ICTを活用した学びの実践	①プログラミング授業と様々な学習場面での ICT 活用	①プログラミング授業の指導と共に「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれの学習場面における ICT 活用の授業研究を行い、新たな指導方法を試行的に実践する。	①先進事例・ベストプラクティスの研究 15 件以上 ・現地調査 3 件以上 ・ICT 活用をテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・全教員による ICT を活用した研修授業の実施	・4 教科の中でのプログラミングの授業を実施 ・先進事例など研究会や研修会に参加。コロナ禍のためオンライン参加。15 件以上。 ・動画配信授業を実施するため、月 1 回以上の検討会議を行った。 ・全教員が ICT を活用した研修授業を行った。
3. 児童カルテの構築に向けた基盤整備	①e ポートフォリオのコンテンツ開発 ②評価基準の構築検討	①e ポートフォリオのコンテンツ開発及び掲載可能なシステム整備を進める。 ②ルーブリック評価などのパフォーマンス評価の研究と導入。	①先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・現地調査 1 件以上 ・ポートフォリオをテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・学習成果物や記録の精選とデジタル保存 3 つ以上/児童 ②先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・ルーブリック等のパフォーマンス評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上	①月例に限らず複数回の検討会を実施し、新学習指導要領に沿った、指導要録の記載システムを導入した。コロナ禍のため現地調査はできていない。 ・デジタル桜童展（作品展）を実施し、図工・習字・家庭科・クラブの作品を配信した。作品をポートフォリオに保存することは、容量の点で難しいと結論づいた。 ②研究授業でルーブリック評価のパフォーマンス評価を行った。
4. 英語授業の進化	①モジュール授業の増加 ②姉妹校とのコラボ授業 ③大阪城プログラムの実施 ④国際コースの検討	①モジュール授業の 1 回あたり時間を短縮し回数を増加する。 ②姉妹校との協議及び必要なハード面の整備を行い、姉妹校とのコラボ授業を試行的に実施する。 ③昨年度作成した大阪城ノートに基づき「大阪城プログラム」を試行的に実施する。 ④初等中等部と連携し、国際コースやイマージョンの展開に関わる法令や制度設計上の調査を実施。	①15 分×3 回/週⇒10 分×5 回/週で実施 ②交流授業を 1 回以上実施 ③研修授業を数回実施 課題や今後の展開をテーマとした検討会議を実施/各学期末 ④法令や制度設計上に関わる調査結果報告書の作成	①モジュール授業に、ネイティブによる聞く時間を加えた。 ②オーストラリア姉妹校の教員がオンラインで 6 年生児童を対象に計 8 回の授業を実施。今年度も相手校児童に対して、本校教員 2 名が 4 回授業を実施した。また、姉妹校在籍児童の家族同士の新しい交流の形を実施した。 ③コロナのため大阪城プログラムがすべて中止となった。次年度に向けた計画の練り直しを行った。 ④国際コースやイマージョンについて、先進事例を調査した結果、費用対効果が低いと判断し、制度の見直しを行い、今までのカリキュラムのまま英語が強い学校に方向性を変えた。
5. 教員の英語指導力向上	①外部検定試験の受験 ②海外英語研修や校内英語研修の実施 ③学習到達目標の明確化	①外部検定試験（英検など）の受験 ②海外英語研修を継続するとともに外部検定試験対策を取り入れた校内英語研修を任意開催し、制度化に向けた対応を検討する。 ③学習到達目標の明確化に向けた検討を実施する。	①原則全教員 1 回/年 ②姉妹校との教員交流 1 名/年 ・セブ島英語研修 2 名/年 ・校内英語研修 概ね 1 回/週 ・予算や時間の確保等、制度化に向けた検討・調整を実施 ③CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・学習到達目標・評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上	①コロナのため、英検受験に制限がかかった。教員の英語力向上のための外部試験の受験を今後も進める。 ②コロナのため海外研修はすべて中止。概ね週 1 回火曜日に教員英会話研修を実施。英検受験に特化したコースも設けた。 ・英語研修の一部予算化、時間の確保を実施。 ③学習到達目標の明確化に向けた CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究を 8 件行った。